

平成29年度大阪府「アウトリーチ型家庭教育支援推進協議会」第1回 記録

◆日時 平成29年9月5日(火) 10時00分から12時00分

◆場所 大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）4階中会議室1



◆概要

第1回推進協議会では、大阪府における家庭教育支援の現状や課題をはじめ、今年度行う「アウトリーチ型家庭教育支援モデル事業」の目的や内容、取組み成果の検証方法、委託5市町（泉大津市、大東市、交野市、阪南市、能勢町）の取組みについての説明等を行い、大阪府・各市町の実施内容や教育と福祉の連携等を中心に協議を行いました。

◆主な内容

1. 構成委員、委託市町事業担当者、事務局紹介
2. 事務局より説明・協議
 - ① 大阪府における家庭教育支援の現状と課題
 - ② 大阪府「アウトリーチ事業」の概要と大阪府の取組み
3. 「アウトリーチ事業」委託5市町からの説明・協議
 - ① 泉大津市の取組みについて
 - ② 大東市の取組みについて
 - ③ 交野市の取組みについて
 - ④ 阪南市の取組みについて
 - ⑤ 能勢町の取組みについて
4. まとめ



<会議のポイント>

【成果指標について】

- ・各委託市町の家庭教育支援の取組み内容、効果や課題に対する、共通の物差しができたことで、同一基準で図ることができ、さらに共通理解を図ることが可能になる。

【家庭教育支援の目的について】

- ・本事業は家庭教育への支援、家庭の教育力を向上させるための取組みであり、不登校をなくすのが目的ではない。目的は、家庭教育を支援する結果として不登校が少なくなり、家庭が充実してくることである。

【福祉との連携について】

- ・学校関係者と社会福祉協議会が、学校、地域（例：民生委員、校区福祉委員）で互いにできることを出し合い、より効果的な取組みが実施できるよう話し合う場が必要である。

養成講座初級編 講座一覧

1 講座内容

| 回・日時 | 主な研修内容 | 回・日時 | 主な研修内容 |
|--|--|---|--|
| [1] 共通 6/27 (火) 10:00 ～ 12:15 | 【講義・ワーク等】 ◎役割の自覚 家庭教育支援員としての役割 活動するにあたって 講師：追手門学院大学 三川俊樹教授 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 | [2] 共通 6/27 (火) 13:30 ～ 16:30 | 【講義・ワーク等】 ◎大阪府の現状と、家庭教育支援の取組について 講師：地域教育振興課 辻花社会教育主事 ◎学校の現状について（SC、SSWの役割） 講師：小中学校課 芳野主任指導主事 ◎子ども理解について 講師：地域教育振興課 高橋主任社会教育主事 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 |
| [3] 共通 6/29 (木) 10:00 ～ 12:15 | 【講義・ワーク等】 ◎寄り添い関わるために 共感、傾聴し、受容的なコミュニケーション をとるための心構えと実践スキル 講師：女性ライフサイクル研究所フェリアン 津村薫副所長 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 | [4] 共通 6/29 (木) 13:30 ～ 16:30 | 【講義・ワーク等】 ◎親の子育てをめぐる現状と課題、親学習の必要性を学ぶ 講師：大阪樟蔭女子大学 萩原雅也教授 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 |
| [5] 親学習 コース 7/4 (火) 10:00 ～ 12:15 | 【班別学習・事例紹介】 〈親学習ワーク実習〉 ◎親学習を体験する ◎親学習の組立て方を学ぶ 講師：家庭教育支援SV 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 | [6] 親学習 コース 7/4 (火) 13:30 ～ 16:30 | 【班別学習・実習】 〈親学習ワーク実習〉 ◎親学習の実施に向けた準備や計画の方法を学ぶ 講師：地域教育振興課 辻花社会教育主事 ◎教材の活用方法と講座の進め方について実習を通じて学ぶ 講師：家庭教育支援SV 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 |
| [7] 親学習 コース 7/11 (火) 10:00 ～ 12:15 | 【班別学習・講演】 〈親学習ワーク実習〉 ◎教材の活用方法と講座の進め方について 実習を通じて学ぶ ◎親学習リーダーとして気をつけておくべきことについて学ぶ 講師：家庭教育支援SV 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 | [8] 親学習 コース 7/11 (火) 13:30 ～ 16:30 | 【班別学習】 〈親学習ワーク実習〉 ◎教材の活用方法と講座の進め方について実習を通じて学ぶ ◎今後の地域における活動にむけてのネットワークづくりとその活用について学ぶ 講師：家庭教育支援SV 【会場：大阪府新別館南館8階大研修室】 |
| [9] 訪問支 援コー ス 7/13 (木) 10:00 ～ 12:15 | 【講義・ワーク等】 ◎民生委員・児童委員の役割について 講師：大阪府民生委員児童委員協議会連合会 石原 欽子会長 ◎子ども家庭センター、家庭児童相談所の活動 内容について（相互連携にむけて） 講師：家庭支援課 成光課長補佐 ◎生活困窮者自立支援制度について 講師：社会援護課 上田副主査 【会場：ドーンセンター4階大会議室1】 | [10] 訪問支 援コー ス 7/13 (木) 13:30 ～ 16:30 | 【講義・ワーク等】 ◎実施市町村の現状について 講師：泉大津市教育委員会教育部指導課 長谷川指導主事 ◎訪問型支援の実践例 講師：日本プロカウンセリング協会 芦澤万里子泉大津校代表 ◎課題解決 模擬課題をもとに、課題解決に向けた訪問 支援の計画案作成 講師（コーディネーター）：上記講師 【会場：ドーンセンター4階大会議室1】 |

※各回講座開始の20分前から受付を始めます。

※会場へは公共交通機関をご利用ください。

平成29年度 家庭教育支援員（親学習リーダー・訪問型家庭教育支援員） 養成講座中級編 実施要項

- 1 目的 ①対話や交流をとおして親と子の関係や子育てについて学び合うための学習機会の提供を促進するため、府内各地域で取組の普及促進役及び親学習リーダーへの指導助言役となる人材を養成する。
- ②様々な問題を抱え込み主体的な家庭教育が困難になっている家庭やその子どもに対する、学校や福祉機関等と連携した訪問型家庭教育支援の中心的役割を担う人材を養成する。
- 2 対象 家庭教育支援SV、または、次のどちらかの要件に該当し、市町村教育委員会が推薦する人
○親学習リーダー
○訪問型家庭教育支援チーム員
- ※家庭教育支援SVの方も、市町村教育委員会を通じて申し込みください。
- 3 募集人員 100人程度（定員を超える申し込みがあった場合は当課で調整）
- 4 場所 大阪府新別館南館8階大研修室

5 講座内容

| 回 | 月日・会場 | |
|---|---------------------------------|--|
| 1 | 9月4日（月） 10:00 ～ 12:30 | 【講義・ワーク等】 ◎大阪府の現状と課題・取組 講師：地域教育振興課 主任社会教育主事 高橋 義浩 ◎子ども理解について ・「発達障がいについて」 講師：支援教育課 主任指導主事 伊藤 敏和 ・「LGBTについて」 講師：大阪府教育センター人権教育研究室 主任指導主事 山岸 充典 |
| 2 | 9月4日（月） 14:00 ～ 16:30 | 【「家庭教育支援スキルアップ研修」に参加】 ◎講演・ワーク「アサーションスキルと引き出す力」 講師：C'sG Misson 代表 瀬戸口 千佳 |
| 3 | 9月20日（水） 10:00 ～ 12:15 | 【講義・ワーク等】 ◎家庭教育の現状と家庭を取り巻く課題 家族をとらえる視点 ～困難を抱える家庭への関わりについて～ 講師：大阪成蹊大学 教授 山本 智也 |
| 4 | 9月22日（金） 10:00 ～ 12:15 | 【講義・ワーク等】 ◎CSW（コミュニティ・ソーシャルワーカー）の役割について ネットワークづくりと家庭教育支援について 講師：大阪教育大学 教授 新崎 国広 |
| 5 | 9月22日（金） 13:30 ～ 16:30 | 【講義・ワーク等】 ◎今日的な課題 スマホ・ケータイに関する状況と取組について 講師：青少年課 主査 高平 美菜子 ネットトラブルから子どもを守る研修会（スマホ・ケータイ安全教室） 講師：「大阪の子どもを守るネット対策事業」連携企業 ◎家庭教育支援に関する意見交流 |

※各回講座開始の20分前(第2回のみ30分前)から受付を始めます。

※会場へは公共交通機関をご利用ください。

平成 29 年度「訪問型家庭教育支援」情報交換会

日 時：平成 29 年 9 月 20 日（水曜日）

場 所：大阪府新別館南館 8 階大研修室

平成 29 年 9 月 20 日（水曜日）、大阪府新別館南館 8 階大研修室にて、府内各市町村内で行われている訪問型家庭教育支援の実践に関わる情報を共有することで、訪問型家庭教育支援活動の取組みの更なる拡充を図ることを目的に、平成 29 年度「訪問型家庭教育支援」情報交換会を開催しました。情報交換会には府内の市町村からだけでなく、和歌山県と京都府からも合わせて 64 名の参加申込みをいただきました。

【実践報告】

湯浅町（和歌山県）と久御山町（京都府）の訪問型家庭教育支援の実践内容をそれぞれ報告していただきました。

報告者：上田 さとみ 氏（湯浅町教育委員会）

『『つながろう湯浅！』～人と人がつながる家庭教育支援～役割の自覚～家庭教育支援員としての役割、活動するにあたって～』



まず、和歌山県湯浅町教育委員会の上田さとみ氏に湯浅町での訪問支援活動について報告いただきました。湯浅町内の家庭に全戸訪問する家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」の活動内容について、福祉との連携によって実現している乳児から中学生まで切れ目のない支援についてわかりやすく伝えていただきました。

報告者：南 佳子氏（久御山町教育委員会）

『～久御山町の訪問型家庭教育支援事業について～』

次に、昨年度より訪問型家庭教育支援事業を立ち上げた久御山町での活動内容について、京都府久御山町教育委員会の南佳子氏に報告いただきました。久御山町内の小学校に、訪問型家庭教育支援員を配置する配置型の支援体制で、立ち上げ当初からの苦労した点や、課題解決に向けて行った内容、これまでに上がった成果等について話していただきました。



【意見交流・講演】



実践報告の後に、村田和子教授（和歌山大学クロスカル教育機構生涯学習部門）にファシリテータとなっていただき、当日参加者同士での意見交流を実施しました。すでに訪問型家庭教育支援員として活動されている方と、行政担当者が複数のテーブルに分かれて、各 5 人ほどで話し合いました。支援員と行政担当者という異なる立場による意見の違いや市町村ごとの活動体系の違いなど、交流の中から多くの学ぶものがありました。

講演：「家庭教育『支援』がめざすもの～これからの家庭教育『支援』を考える～」

講師：和歌山大学クロスカル教育機構 生涯学習部門 村田 和子教授

最後に、実践報告と意見交流を踏まえて、村田教授に講演いただきました。この事業のゴールつまり「訪問型家庭教育支援の出口を見据える」ことの重要性や、「困った親」ではなく、「困っている事柄を抱えている人」と捉える必要性など支援員として大切にしなければいけないことについて多くを学ぶ機会となりました。



【参加者の感想】

- 様々な立場の方からお話をうかがうことができました。よい経験となりました。連絡先の交換もさせていただいたので、今後活用していきたいと思います。
- 実際に訪問される側から支援する側へなられた方のお話が聞けたのが良かったです。家族をエンパワメントする訪問について、今一度考えてみたいと思いました。
- 市町村の規模の違いはもちろんあると思いますが、やはり市町村の連携が非常に大切だとわかりました。
- 援助者どうしがつながりを持つ、出口を見据える活動を特に意識して活動していきます。

平成29年度第3回「教育コミュニティづくりに係るコーディネーター研修」 (兼平成29年度『早寝早起き朝ごはん推進校事業』報告会)を開催しました！

1月24日(水曜日)大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)にて「平成29年度第3回『教育コミュニティづくりに係るコーディネーター研修』」を開催しました。学校・家庭・地域が協働した、子どもたちの基本的な生活習慣確立に向けた取組や、よりきめ細かな家庭教育支援(訪問型家庭教育支援)について、取組報告と講演を行いました。

1. 日時 平成30年1月24日(水曜日)13時30分～16時45分
2. 会場 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) 7階 ホール
3. 参加者 教育コミュニティづくりに関するコーディネーター・学校関係者・行政担当者等 約200名

1. 取組報告 「平成29年度『早寝早起き朝ごはん推進校事業』の取組について」

報告：泉大津市立小津中学校・泉大津市教育委員会



推進校である小津中学校から、基本的な生活習慣を身につけるために、時間を守る意識や時間管理能力を育む取組として、「遅刻ゼロ運動」(毎朝のあいさつ運動とともに、遅刻しないよう働きかける取組)や、「NOチャイムDEスタート」(チャイムを鳴らさずに授業を開始する取組)、校区内の小学校と合同で取り組んだ、基本的な生活習慣の実態把握や「10日間チャレンジ」(早寝早起き朝ごはんを意識して1日の過ごし方を計画し、振り返る活動)、家庭や地域への発信(働きかけ)などについて報告がありました。

また、泉大津市教育委員会からは、地域人材により構成された家庭教育支援チームによる、訪問型家庭教育支援について報告がありました。

(参加者の感想から)

- ・小津中学校の取組が素晴らしいと思いました。中でも「NOチャイムDEスタート」は生徒たちの自立に役立つことだと思いました。
- ・生徒が自ら考えて取り組んでいることや、一人一人が健康を意識できていくことがとてもいいところだと思いました。

2. 取組報告 「課題を抱え支援を必要とする子どもや保護者へのアプローチについて」

報告：大阪府教育庁 地域教育振興課

家庭教育支援チームが学校や関係機関等と連携し、課題を抱える家庭を訪問し、相談対応する取組(アウトリーチ型家庭教育支援モデル事業)について、成果や課題などを報告しました。

3. 講演 「つながろう！家庭・学校・地域・行政・福祉～切れ目のない支援のために～」

講師：善野 八千子 教授(奈良学園大学 人間教育学部)



『子どもの育ちと学びをつなぐ』には、家庭・学校・地域・行政・福祉が連携・協働することが大切であるなど、これまでのご経験や研究をふまえ、様々な観点からお話いただきました。そして、子どもたちに育む力として「生活習慣も含めた自己管理の力」や「対話的な学びの力」など、具体例を挙げながらお話いただきました。地域のコーディネーター、学校関係者、行政関係者など様々な方の活動に、多くのヒントをいただける講演会となりました。

(参加者の感想から)

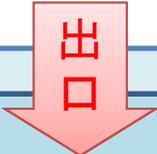
- ・学校だけではできないことがたくさんある世の中で、チームワークで地域の子を育てる思いを高めさせていただきありがとうございました。
- ・訪問支援で、お母さんとお話することが多く、対話の大切さを痛感しています。思いを引き出すことが難しいですが、そのテクニックが少しわかったように思います。これからの活動の参考にになりました。

課題対応型(泉大津市)

実施内容

(ケースに応じた支援員の派遣)

- ① 学校、福祉部局による実態把握と、教育委員会への訪問要請
- ② チームリーダーと担当サポーターが校内(小・中学校)のケース会議に参加
- ③ 「個別の支援計画」を作成
- ④ 家庭訪問の実施
 - サポーターが信頼関係を築き、保護者のストレス軽減による心的安定
 - 保護者、子どものエンパワメント
 - 訪問支援による家庭の養育改善と子どもの生活リズムの確立
 - 学校の主体的な課題解決に向けたサポート(学校と家庭をつなぐ)
 - 教職員が動くことの難しい時間帯の訪問支援
- ⑤ 定期的なケース会議(支援プランの再検討)

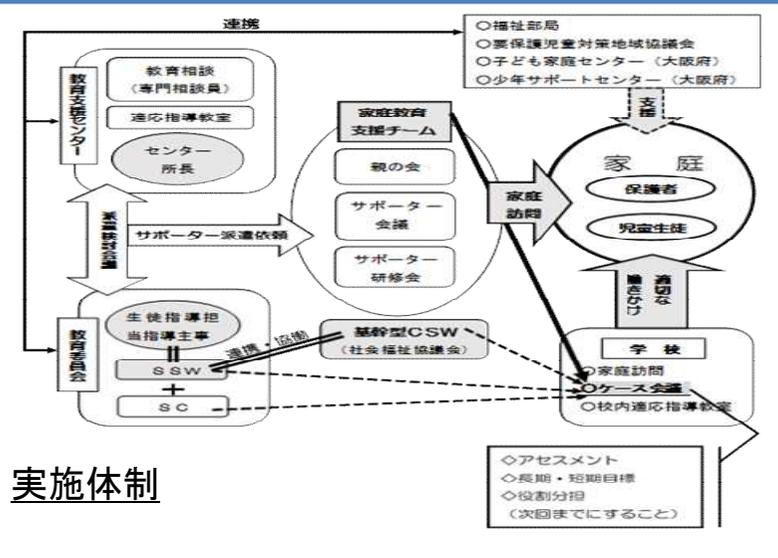


親の会

- 保護者が集い、交流する場、学びの機会を提供(毎月1回)

親学習講座

- 対話や交流を通して、子育て等について学ぶ機会を提供



実施体制

体制づくり(サポーターへの支援)

- カウンセリングに関する研修を受けた人をサポーターとして登録
- チームリーダーによる月1回の家庭教育支援サポーター会議での指導・助言
- 担当指導主事等によるスキルアップに向けた研修
- 地域協議会の開催

成果

- 孤立した家庭の改善(学校と家庭をつなげる役目)
- 不登校の解消と問題行動の減少
- 保護者のエンパワメント

活動実績(平成28年度)

訪問家庭および児童数(17家庭 23人)
訪問回数(301回)

指標

- 長期欠席児童生徒の学校復帰率
(12人÷23人×100=52.2%)
- 適応教室入室率・欠席日数前年度比較
- 保護者のエンパワメント率
(前向きになった家庭数/訪問家庭数
10÷17×100=58.8%)

有効だった支援(支援員の声)

- 子どもの状態を母親が受け入れられるようになり、子どもの長所を見つけられるようになった。
- 母親にママ友ができ、会話する機会が増え、笑顔が出るようになった。

(学校の声)

- 支援サポーターが入ったことで、保護者が前向きに考えられるようになった。

今後の方向性

- 全小学校にサポーター配置(各校年20回)、訪問支援の拠点となる取組みへの進展

学校配置型(寝屋川市)

実施内容

(小学校配置による訪問支援)

【把握】

- ① 教職員と連携し、児童の登校状況を把握
- ② 授業中の校内見回りで、児童の様子を観察・支援を必要とする児童の把握
- ③ 保健室来室児童の様子を観察
- ④ 給食の喫食状況の観察

【対応】

- ① 不登校傾向を持つ児童の登校支援や保護者との連絡調整
- ② 担任や管理職などと連携し、児童の支援方法を検討(ケース会議への参加)
- ③ 家庭訪問などによる保護者支援
- ④ 保護者、児童の相談活動
- ⑤ 家庭教育講座及び、「わいわい楽しく子育て広場」における親学習の機会の案内と参加を促す

出
口

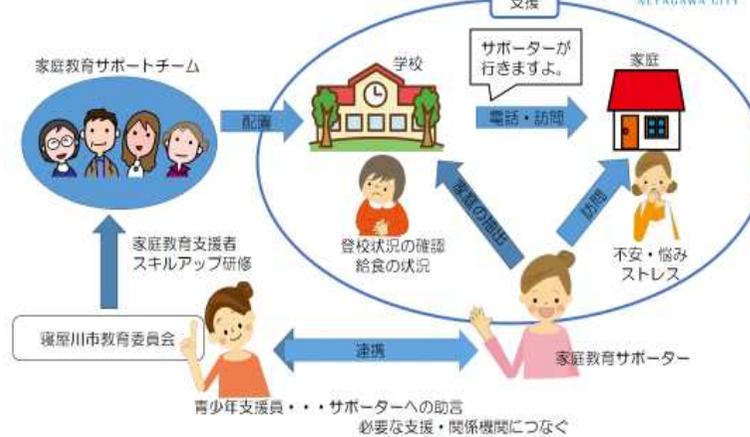
親学習

- 家庭教育学級(わいわい楽しく子育て広場)での親学習

※サポーターの働きかけで参加を促し、保護者どうしや、地域とのつながりをつくる

実施体制

家庭教育サポートチーム



成果

- 不登校傾向の改善
 - サポーターの寄り添い・受容による、保護者や児童のエンパワメント
- (例)保護者に笑顔が見られるようになり、子どもに対する関わり方が変わった。
- 保護者、児童、教職員の相互理解の促進 等

活動実績(平成28年度)

- 家庭訪問回数 3,399回、児童対応回数 6,056回
- 電話相談 2,703回、学校面談 928回

活動指標

- 相談件数、家庭訪問回数、児童対応回数、保護者との対話回数、遅刻日数、出席日数

体制づくり

(サポーターへの支援)

- 市で実施する研修を受けた人をサポーターとして任用
- 小学校に家庭教育サポーターを配置(平成28年度 15校)
- 青少年支援員によるサポーターへの助言
- スキルアップ研修

有効だった支援

(サポーターの声)

- 子育ての大変なことを聞き、ねぎらうことで、保護者との信頼関係ができた。
- 保護者や学校、担任の思いを聞き、第三者から伝えることで、お互いの理解が深まった。

(学校の声)

- サポーターと担任の情報共有により、不登校の児童が減ってきた。

今後の方向性

- 学校とサポーターの連携をさらに密にし、課題やねらいの共有化を図る。

家庭(保護者・子ども)の項目別状況(試案)

| 区分 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----|------------------------|---|--|---|--|--|
| 保護者 | A 支援員との関係 | 訪問しても会うことができない | 会える時と会えない時がある 時により態度が変わる あいさつがない ほとんど表情に変化が見えない | 会うことはできる 簡単な対話をしている 支援員の働きかけであいさつする 対話の内容によっては、笑顔が見られる | 子どもの様子・子育てについて話(雑談)している 自然にあいさつする 会話中、笑顔がよく見られるなど、自然な表情をしている | 積極的に会話している 不安や悩みを自分から話している 明るくあいさつをかわしている 支援員を気遣いながら、表情豊かに会話している |
| | B 子どもへの対応 子育てに対する意欲 | 「子(養育)を拒否している」「暴力をふるう」など、虐待事象が見られる 子どもの安全確認がとれない | 子育てに対しての前向きな言葉が出ない 子育ての課題(子どもの課題)を認識していない 子どもへの対応が感情的(自分本位)で子どもは受け入れようとしていない 養育(衣食)に関することを放棄することがある | 子育てに対する意識はあるが、不安な(自信のない)言動が多い 子どもの課題を認識しているが、それに対して取り組もうとしていない 子どもとのルール(約束)はあるが、一貫した姿勢(しつけ)になっていない 子どもの行動(生活)に注意を払おうとしているが、後回しになることがある | 子育てに対して前向きな言動が多い 不安なこともあるが、他者との会話(交流)で改善している 子どもにルール(約束)を守らせようとしている 学校での状況等子どもの言動、態度に注意を払っている | 子育てについて、様々な機会を捉え積極的に学んでいる 子ども理解に努めている 自己認識ができていない 子どもの主体性を尊重し、成長の後押しをしている 状況に応じて、適切に「しかる」「ほめる」「認める」ことをしている |
| | C 他者(地域)とのかかわり | 他者とのかかわりが全くない | 地域での活動にほとんど参加せず、孤立している(声をかけても返事がない) あいさつをかわさない 支援員等、働きかけする特定の人と関わることがある | 他者との交流は避ける傾向にあるが、必要に迫られる範囲で、地域との関わりをもっている 地域や学校関係など特定の人と対話している | 適度に地域付き合いしている 周りの人にどう思われているかが気になる 友人や気の合う人と、気軽に会話している | 地域行事に積極的に参加している 人の交流を通して、自分の長所を伸ばしている 近所の人や保護者同士で、会話する機会が多い |
| | D 学校との関係 | 学校から連絡がとれない | 学校からの連絡には応じるが、個人懇談等に参加(来校)しない 子どもの学校での様子に関心がない(関わろうとしない) | 個人懇談等には参加する 遅刻や欠席の連絡が後回しになることがある | 授業参観や運動会等、無理のない範囲で学校行事に参加している 学校と一定の関係を持つようとしている | 保護者研修会やPTA行事等の交流の場に参加する 学校の状況を客観的に捉え、保護者としての関わり方を考えている |
| | E 室内の状況 | 室内の状況はつかめない 屋外に物が散乱している | 物(洗濯物、ゴミ等)が散らかっている状態が続いている | 清掃し、きれいな時もあれば、物が散らかっている状況の時もある | 不快感のない程度に清掃している | 整理整頓が行き届き、清潔感のある状態にしている |
| 子ども | F 支援員との関係 | 訪問しても会うことができない | 日により態度が変わり、話できる時とできない時がある 対話中、表情に変化が見えない | 子ども自身の興味があることについてなら話ができる 対話の内容によっては、笑顔が見られる | 不安なことや悩み、不満に思うこと、学校についてなど、支援員の方から聞いたら話してくる 会話中、自然な表情をしている | 子どもの方から、不安なことや悩み、不満に思うこと、学校についてなど相談している 表情豊かに会話している |
| | G 保護者との関係 | 保護者との関係について状況がつかめない | 保護者への言動が攻撃的 無視している 全く会話がでない | 保護者への言動、態度が反抗的なことがある 子ども自身の興味があることなど、必要最小限度の会話しかない | 学校や友人のことについて話している | 保護者の状況を理解し、思いやる言葉、行動がある 悩みや不安なことを相談している |
| | H 学校等での様子 | 暴力、授業妨害等、他者に重大な影響を及ぼす課題がある 深夜徘徊する等、家庭に生活の基盤がない | 問題行動、不登校等の課題がある 学校の指導が入りにくい 食事、睡眠等の基本的な生活リズムがとれていない 良好な交友関係を築けていない | 学校の教育活動に参加するが、遅刻等の課題が見られることがある 気持ちが不安定になり、学校の指導が入りにくいことがある 就寝時間が遅くなるなど不規則な生活になる時がある。 | 落ち着いた学校生活を送っている 好きな地域行事に参加している 学校に一定の信頼を寄せている 概ね、基本的な生活習慣が身についている | 積極的に、学級活動やクラブ活動に取り組んでいる 主体的に地域行事に参加している 先生に、不安なことや悩み、不満に思うことを相談している 自立(自律)し、主体的に生活習慣を築いている 友人に、不安なことや悩み、不満に思うことを相談している |